

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105313
法人名	社会福祉法人吉田向陽会
事業所名	グループホームむれが岡風車の宿
所在地	鹿児島市牟礼岡1丁目3番7号 (電話)
自己評価作成日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎運営推進委員のメンバーがすべて校区社共の理事であることから地域密着が充分に図られている。
 ◎法人の母体が保育園であることから、小児との交流が随時図られ、チャイルドセラピーの効果が出ている。
 ◎介護スタッフのほとんどが地域在住であるので利用者との馴染みの関係が出来ている。
 ◎ホームは市外から見て、小高い丘にあり、背後にある風力発電所の風車が見える環境の良いところがあるので、そこより「風車の宿」と命名された。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所吉野支所から数キロ程離れた自然豊かな牟礼岡団地の一角に、平成18年に同法人の保育所に隣接して設置されている。周辺は一般の住宅や小学校、同法人の児童クラブ、地域のコミュニティ施設等が立ち並んでおり、地域密着型サービス事業所として地域との交流が図り易い環境である。

開設以来、自治会に加入し校区のイベントへの参加や日頃の散歩時の会話、友人知人の来訪、ボランティアの受け入れ、住民からの高齢者福祉や認知症ケアの相談対応、農産物を頂くなど良好な関係を築いている。特に隣接の保育所の園児とは日常的に会話があり、歌や遊戯の状況が見え互いに手を振り合うなどのゼスチャーで触れ合い、イベント(夏祭りやソーメン流し、運動会他)にも参加して交流している。コロナ禍に配慮して現在は外出や買い物、外食等は控えている。

管理者及び職員は理念やケアの目標に沿って、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら、その人らしい生きがいのある暮らしの支援に努めており、日々の活動も無理強ひすることの無い個別性を尊重したケアに取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望に対しては職員全体で協議してサービスの改善に努めており、アンケートの結果からも信頼度の高さが窺える。

管理者および職員は信頼と協力のある良好な人間関係を築いており、日頃の業務の中やスタッフ会議、個別面談等で意見や要望等を出し合い、全員で協議して運営やサービスの向上に取り組んでいる。常に「お互い様」の気持ちで職員同士を思いやり、研修の実施やケアへの助言を行い、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的な事情も十分配慮するなど働きやすい環境作りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ごく普通の生活をその人らしく乳幼児や地域の方に囲まれて穏やかに過ごせる暮らしを実行します」の理念を目の触れやすい場所に掲示し唱和して共有し確認している。	理念は4項目のケアの目標と共に事務室や玄関等に掲示し、毎日唱和も行って認識を共有している。日々の申し送りや毎月のスタッフ会議でケアの振り返りや意見交換を行って、理念に沿ってその人らしい平穏な暮らしの支援に取り組んでいる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事（小学校、校区の運動会参加、保育園の夏祭、同法人の運営する児童クラブ、コミュニティとの関わり積極的に交流。日常的に散歩に出かけ地域住民と会話と挨拶の機会も増えてきている。	地域の情報の把握に努め、円滑に交流する関係を築いている。感染予防に配慮しながら家族との面会や日頃の散歩時の挨拶、保育園児との会話やイベント時の触れ合い、コミュニティから季節の作品を頂き、地域の人からも日常的に農産物や手作りのおやつが届けられており、これらの交流は利用者の楽しみとなっている
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍の中、地域行事等へ体力にある元気な利用者様と一緒に参加している。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には職員、民生委員、老人クラブの会長、包括の職員、家族メンバーで利用者の生活状態は周知されて、サービスの向上のアドバイスになっていたが、コロナ禍の為ここ2年間は開催できず、状況を書面にて報告	会議は、民生委員、老人クラブ地区会長、地域包括支援センター職員等の参加で隔月毎に同法人の「グループホーム吉田の郷」と合同で実施しているが、コロナ禍により書面での会議が続いている。ホームの現況やヒヤリハット、行事等を報告し、意見や要望等をもらうように取り組んでおり、寄せられた意見等は申し送りやスタッフ会議で検討して運営やケアの向上に繋げている。

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政職員とは運営推進会議や介護保険証更新申請等の書類提出や相談事がある時に訪問し助言を頂いている。年1回介護相談受け入れ、地区のグループホーム連絡会との交流、連携している。	市吉野支所又は吉田支所の窓口に出向いたり電話等で介護保険や各種制度、コロナ禍に関する質問や協議、生活保護受給中の利用者の処遇に関する連携等を行い助言や指導を貰うなど、日頃から密に協力関係を築いている。ズームによる市主催の会合や研修にも積極的に参加して運営やサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束改善計画規定」を定め委員会を中心とした勉強会を毎月職員会議で行う。拘束のないケアの実践に向け取り組んでいる。また、ヒヤリハットについては、その日に職員間で共有し職員会議で再度話し合い再発防止に繋げている。	身体拘束の無いケアについては重要事項や利用契約書等に明記されており、研修の実施や日頃の業務の中で振り返り等を行って認識を共有している。適正化を目的とした委員会を毎月開催し言葉による拘束も含めて意見交換を行い、自由な生活の支援に努めている。不適切な言動には、その都度、助言し合うなど日常的に改善を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、馴れ合い状態での無理な言葉などの静止にならないようにスタッフ同士お互いに注意している。職員間で話し合いを行い状態把握と対応を職員会議等で行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者がおられない。以前利用していた利用者その後見人の行政書士より、研修の機会を設けて頂きました。研修の機会をつくり、積極的に参加し、必要時に活用でき、支援できるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項を説明し了承を得た上で契約している。また、制度改正がある場合は再度説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見は日々の言動から汲み取り家族からは、来所時に話を聞き意見を確認している。また、毎月家族に送付しているホーム便り、その月の健康面、生活面を個人的に書面報告することで。家族の思いや意見を引き出すことができる。	利用者や家族には常に要望等を気楽に伝えて貰える雰囲気づくりに努めている。利用者の思いは日頃の会話や仕草等で汲み取り、家族からは面会や電話、手紙、家族会等で聞き取っている。また、利用者毎に状況を毎月文書で詳しく伝え「風車だより」も送付して意見を貰うように取り組んでおり、内容をスタッフ会議で協議して改善を図っている。コロナ禍で中止していた家族会の再開も検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で積極的に意見を求めると共に、日頃から、連絡ノートや口頭での報告、連絡相談を密にするように努めている。	管理者及び職員は気軽に意見や要望が言い合える信頼関係と「お互い様」の気持ちでの協力関係を築いており、業務の中やスタッフ会議時に要望や意見を出し合い、内容によっては法人本部とも協議しながら改善を図っている。ケアへの助言や研修に取り組む、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備されている。管理者は、法人全体の会議に参加して、情報を共有するとともに、目標を持って働くことが出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>最近、コロナ感染予防のため外部研修は難しくなっているがリモート研修を積極的に行っている。内部研修を充実させ、新しい情報を習得して、スキルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉田地区介護保険事業所の連絡会や、ケアマネの交流会に参加し、地域の情報交換会、ケア会議に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	病院、施設、居宅のケアマネからの情報だけでなく、契約前にご本人やご家族に訪問して頂き、情報収集と、希望、要望を聴き、環境変化が少ないように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問、来館頂き、ご家族の要望などを聴き、不安の解消に努め信頼関係が作れるように努めている。入居後は、個々の状態を報告し、意見交換するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問際の情報を基に現時点でのご本人のベストな環境で生活できるように他のサービスを含め、情報提供をするなど、共に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは常に生活を意識し共に生活させて頂いている。またスタッフだけでなく、入居者同士も支え合い、支援する側、される側と意識を持たずお互いが協働し生活している。		

自己評価	外部評価	項目	実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を意識的に作るように配慮し、家族関係が途切れないように取り組んでいる。ご家族と意見交換、情報の共有、同じ思いで支えていけるように取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄の生活歴の把握、自宅への外出、外泊、馴染むの病室の活用、知人、友人の面会等、ご家族の協力を頂いている。ここの生活習慣を尊重し、継続的に交流が持てるように取り組んでいる	利用者毎の生活歴や馴染みの状況を共有し、家族の意向も確認しながら支援している。感染予防に配慮しながら家族や友人との面会や訪問美容を玄関先で実施し、周辺の散歩時には地域の人との挨拶や会話を楽しんでいる。家族との電話や手紙を取り次ぎ、「風車だより」の送付や利用者毎に現状を詳しく毎月文書で伝えるなど関係の継続に取り組んでおり、携帯電話を所有している利用者は日常的に会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、見守りの中、入居者様同士の関係性、性格などを把握し、トラブル等には十分に配慮入居者様同士が自然な形で支え合い生活できる事に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談して頂ける取り組み。退去時の状態に合わせ、どのようなサービスが必要か共に考え支援、電話による様子伺い施設面会、病院への見舞いに行くなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や生活の中で、希望等を把握し実現できるように努めている。また、職員会議で検討していく中でもご本人の立場に立つように心がけている。	日頃の会話や見守りの中で利用者の思いを汲み取り、その人らしい平穏な暮らしへの支援を家族と連携して取り組んでいる。利用者の意向による趣味（音楽やテレビの視聴、職員との語り他）や家事（洗濯物たたみ、調理の手伝い等）の取り組みについては、心身の状況や残存能力に配慮しながら個別の支援に努め、これらの成果には評価や感謝の言葉を添えて、自己肯定感の修得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を把握し、又、これまでのサービス状況等は、ご家族を含め、関係者から情報収集するように努めている。何気ない会話から情報収集し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に身体状況や認知症等の把握小さな動きからも感じ取り本人の全体像を把握し職員全員が情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一連のプロセスを経て、日々の情報や気づきなどを取り入れ作成している。本人にとって、何が必要なのか、職員間で話し合い計画に入れるようにしている。	本人・家族の意向を把握し、主治医の指示やモニタリング及びスタッフ会議時の意見を基に、生きがいや楽しみ事等にも着目した介護計画を作成している。ケアの実施状況は申し送りやホーム日誌等で共有し、利用者の状況変化時には計画を修正して改善に取り組んでおり、計画の内容は家族の承諾も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の身体状況や認知症の状況などの把握、共有。本人の言動やそれに対する職員の対応を個別に記録し、朝、夕の申し送りを利用してカンファレンスや介護計画に役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>コロナ感染予防のために計画できず。コロナ前は、月に一度は行事の実施、車で外出で気分転換出来ていたが、今は、個別の要望に、ホームだからこそできる支援の充実に努めている。季節の料理、飾りつけなど</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域行事への参加など、積極的に取り入れ、閉ざされた空間での生活にならないように、コロナ禍でも、保育園交流（夏祭り運動会）に参加して幼い子供たちとふれあいを楽しむ、</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には、家族に依頼している。受診の際には、主治医に情報提供し連携をとっている。家族が県外の方や事情のある方は職員が同行。毎月、定期的に協力医療機関の訪問診療を受ける</p>	<p>利用者毎に病歴等を把握し本人・家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、現在は殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。他科の受診は家族の対応を基本としているが状況によってはホームで対応している。月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を実施しており適切な医療が受けられている。管理者は看護師の有資格者であり、日常的に衛生や健康管理を徹底し協力医療機関との連携も十分で、利用者及び家族の安心に繋がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護を受けている。利用者の健康状態を報告し、健康管理及び、通常ではできない医療行為も受けられる。状態悪化の場合も連絡して、受診、看護が受けられる。(ちなみに、管理者も看護師の資格あり)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には情報提供を行い、医療機関と情報の共有。入院中は職員、管理者が訪問し、退院を含め、今後の方向性について話し合う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本にとって一番良い方法を家族と相談、重度化することでホームの生活が困難である場合は、訪問診療を受けている病院と連携をとり、他の施設を紹介するか、入院するかはご本人、家族の状況に応じて対応している。	重度化や看取り対応の指針を整備しており、利用開始時や病状変化時に本人及び家族に説明して理解を得て意志確認書を貰っている。重度化した時点で主治医や家族との話し合いを行い、入院や特別養護老人ホームへの入所を含む希望に沿った支援に取り組んでいる。重度の肺癌の治療中で看取りを希望している利用者も現在入所している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にも、速やかに対応できるように年1回消防署員に応急処置、救急蘇生法の研修を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を消防署指導のもと、利用者、職員で行っている。夜間訓練、119番通報訓練。119番通報と緊急連絡先に同時通報できる設備あり。消火器の訓練、災害時の備蓄（飲料水、食料など）</p>	<p>消防署の協力を得て年2回夜間発生も想定した火災中心の訓練を隣接の保育園とも協力して実施し、避難や通報、消火器等の取扱いの研修も行っている。日頃から災害パターンに対応した通報や避難経路を確認し災害事例を基に意見交換するなど、認識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置、消火器等が設置され、災害時の食料・飲料水、介護用品等は消費期限を確認しながら備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉使い、声掛けには十分に配慮して行うようにしている。自己決定を大切にさりげないケアに努めている。</p>	<p>人格の尊重やプライバシー確保、守秘義務については研修の実施や日常のケアの中で認識を共有し、常に利用者の気持ちに配慮したケアを心掛けている。利用者毎の特性や自己決定を大切に楽しみ事や好きな家事の取り組みも個別に支援している。入室時は声掛けやノックを励行し、排泄や衣服の着脱等は羞恥心にも配慮したケアに努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員の見守りの中、安易に答えを提供することはせず自ら考え答えが出せるような、雰囲気作りを心掛け支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様のそれぞれの時間を大切にし、穏やかな生活の実現の為に取り組んでいる。職員の都合にならないように注意。ご本人の気持ちを尊重し、個別性の支援を心がけている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>その日に、身に付ける衣服と一緒に選び、希望により美容院より「訪問カット」依頼。パーマ、毛染めの場合は、お連れしている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者の好みを聞き、栄養のバランスを考え献立している。野菜下ごしらえ味見などしてもらい食事の楽しみの工夫をしている。今は、外食は出来ないのので月に1回はテイクアウトしている</p>	<p>好みや疾病に伴う食事制限、形態、栄養バランス等に配慮し、食材の下ごしらえや片付け等は利用者も一緒に楽しみながら調理している。季節の行事食や誕生日の希望食、ケーキ、手作りのおやつ、月1回のテイクアウトの弁当など食事が楽しみなものとなるよう工夫しているが、コロナ禍により外食や弁当持参の花見等は控えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については、毎食後にチェック記入、不足分には捕食。水分補給は10時、15時、入浴後。常に、麦茶、ミネラルウォーターを常備して自由に補水できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア時、個々の能力を把握し必要に応じて援助し、自立の方を含め、口腔内の状況を観察している。義歯の状態によっては訪問歯科を受ける。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	「健康チェック表」を用いて、個々の排泄パターン把握管理している。できる限り、トイレでの排泄が出来るように支援している。自尊心に配慮し、個々の身体能力に応じて支援している。	利用者毎の排泄リズムや習慣を「健康チェック表」で把握し、リハビリパンツ等の利用者も昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。介護用品及びケアの工夫を介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、介護用品の軽減もみられている。便秘の予防に食物繊維の多い食材や水分の摂取、運動量等に配慮し、状況によっては主治医の指示で薬も服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の中に食物繊維を含む食材の使用、水分を多くとれる機会をつくる。運動が思うように出来ない車椅子の方が便秘気味。状態によっては主治医の指示により下剤の服用。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	最低週2～3回、希望を聞きながら、入浴・清拭、足浴支援をしている。自立の方は見守り支援 入浴拒否の場合は声掛けの言葉や時間を変える等タイミングを見る。無理強いはしない支援	週2～3回の入浴を基本に、清拭や足浴等も取り入れながら清潔保持に努めている。入浴時の温度や時間、習慣、同性介助等は意向に沿って柔軟に、また重度化した利用者（4人）には2人介助で対応しながら個浴で楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで時間や声かけ等の工夫で意欲を促すように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠が出来るように、散歩や体操など、日中の活動を促し生活のリズムを確保している 室内に置いては適温の維持、寝具等の清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルを作り、情報を整理し、いつでも確認できるように、服薬時には、しっかりと確認し誤薬のないように努めている。ここの		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、生活の中で出来ること、出来ない事を熟知し、自ら行えるように支援 季節の行事を大切に、提供している。得意分野で能力を発揮し喜び楽しみを見出す。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は、支援できていませんが、桜やコスモスなど手作りの弁当を持参して出かけたり、隣接する保育園との交流、ブドウ狩り、夜にはイルミネーション見に出かけていました。外出の機会が多く家族にも喜ばれていましたが、今年は実行したい。	コロナ禍により外出計画が十分には実施出来ない状況ではあるが、利用者の状態に応じた介助で周辺の散歩を日常的に取り組み 保育園の運動会やソーメン流し等のイベントに参加して楽しんでいる。全員での外出やドライブ等は控えているがコロナ禍が収束したら積極的に取り組む意向である。室内での軽い体操や音楽・ビデオの視聴、季節に応じた作品作り等の工夫した取り組みでリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者から要望や希望に沿って、買物される際に、必要な金額をその時に渡すようにしている。必要に応じて使用できるように一定額は預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者からの希望に合わせて本人が電話したり、ご家族からの電話を受け、ご本人に取り次いでいる。いつでも手紙が出せるように切手を用意、投函時も職員が同行している、		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、自然な光や音を取り入れ、心地よく過ごせるように努めている。居間や廊下には、利用者さんの作品の掲示、又、隣接する保育園からは園児の元気な声が聞こえ、居心地よく過ごせる空間作りを務めている。	一般の住宅をリフォームしたホームで庭には草花が植えられるなど家庭的な雰囲気である。廊下やリビング等の共有空間は明るくテーブルセットやテレビ等が利用者の動線や利便性に配慮して設置され、畳のスペースも設けてある。室温、換気、整理整頓、衛生管理が徹底され、活花や季節に応じた利用者の作品（12干支や節分、節句など）、写真等が随所に飾られて和やかな雰囲気になっている。台所からは調理の音や匂いが伝わり、保育園児の歌や遊戯、歓声等に触れながら、利用者は平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で会話を楽しまれている方、自室でベッドで横になって方、思い出の歌を口ずさんでる方、椅子に座ってにこやかに笑っている方など安心して過ごされています。		

自己評価	外部評価	項目	実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって安心した居心地の良い居室となる様、馴染みの物やご主人や孫の写真、テーブル等配置、行動スペースを確保し安全も配慮して生活できるように工夫している。	居室はフローリングに掃出し窓の仕様で、ベッドやエアコン、タンスが備えてあり、利用者の意向を確認しながら整理整頓を支援している。利用者は家庭同様に落ち着いて暮らせるように、愛用してきた寝具や家族写真、小物等を自由に持ち込み、また長寿祝いの記念品や自身の作品も飾って、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を考え、自立支援を目的とし、廊下やトイレ内、脱衣所、浴室の手すりやグリップの安定など、必要に応じて居室内の手すりやベッドの介助カバーの設置を用意している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない